

## 「和」の心を持つ温厚な北垣先生

広島大学高等教育研究開発センター教授

黄 福涛

私が先生と知り合ったきっかけは2000年4月に先生が広島大学高等教育研究開発センター（当時、大学教育研究センター）へ赴任される時でした。今となって考えると同じ職場で先生と共有した時間が11年以上もあることから、おそらく私はセンターの中で他のどの教員の方々よりも先生と一番長くお付き合いをさせていただいているのではないかと思います。

最初は、先生のご専門である背景と関係があるかどうかよくわかりませんが、先生は謹厳で非常に朴訥でなおかつ容赦ないというような印象を受けました。しかし、先生と接することを通じて、先生は厳格かつ真面目な一面がありますが、その反面、学生さんや若い同僚などに対しては常に温かく丁寧にご指導されておられ、また世話を惜しまない一人の教育者かつ年長者でもあることを実感しました。そのような例として、2002年から2007年にかけて先生と一緒に中国人留学生の博士論文を指導する際に、先生の厳格さと優しさの両面を実感しました。先生はその学生が進学してから学位を取得するまで、研究計画やスケジュールの取り決めなどに関して厳しく管理されたと同時に、その学生の研究題目の設定から研究枠組みの作成および博士論文への最後の仕上げまでの作業について、鋭い分析視点から指導し、学生の研究レポートや論文原稿に自ら修正を入れて、文法の誤りの訂正といった細かい部分までこだわり仕上げられました。また私にとっても、こうしたプロセスを経て、大学院教育に関するテクニカルな部分のみならず、指導教員として一人前の研究者を養成することに必要となる知識や能力などが理解できました。例えば、大学院博士課程後期の学生の指導に関して、先生がよくおっしゃっておられるように「博論だから、ただの白書みたいなものを出しても評価されない」とか、「学生の指導にあたって、仮説を検証するために、その裏づけとなるデータや証拠を収集することはもちろん重要だが、学生に論理的思考能力を身に付けさせることはもっと重要である」といった話も、指導教員の立場になってから考えると、平凡で素朴であるかもしれませんが、当時の私からすれば非常に印象的で、また今となっても深く印象に残っている言葉であります。

学術的な話以外にも、プライベートでかなり先生にお世話になったことがあります。二人の年齢差が大きく、また研究分野もかなり違っているにもかかわらず、人間関係のことや日本での生活で困ったことや悩みごとがある度に、先生に相談に乗っていただいたことが多かったです。親身になってアドバイスをしていただいたことは、今でも本当に感謝しています。

2001年3月に私共の一家が西条から広島市内の公務員宿舎に引越する前に、広島市内のいくつかの宿舎を申請することができましたが、子供の通学や私の通勤などのことを考える上で、入居先のことでかなり悩んでいました。先生と相談した際に、たくさんアドバイスをしていただいたことだけでなく、自分のお住まいの公務員宿舎までご案内いただき、室内の間取りから設備の利用

状況、周りの環境についてまでもお話ししていただきました。特に、お忙しい中、週末に先生のお車に家内と私の二人を乗せて、市内の入居可能な宿舎の全てを一緒に下見させていただいたことは、思い出として今も深く印象に残っています。

また、数年前に家内が交通事故で広島大学病院に入院したことがありました。当時、私が毎日広島市と西条間で通勤しながら、受験勉強中だった子供の面倒も見ないといけないということで、途方に暮れてしまい精神的にも辛い状態に陥っていました。先生から相手との交渉をはじめ、保険会社や担当警察署、その他の関係者とのやりとりなどについて、いろいろアドバイスをしていただきました。また関連書類の作成や複雑な損害賠償の申請などの手続きを含めて、ご丁寧にお手伝いしていただきました。その上、家内が入院していた時に、奥様とご一緒にお見舞いにお越しいただいたことは、私たちにとって感激させられた出来事でした。この拙文を執筆するにあたって、家内から「ぜひ、私の感謝の意もこめて書いてください」とのことでした。

来日後、私は多くの日本人の方々から様々な機会を通じて日本の文化や国民性などを学ぶことができました。その中でも特に先生のお言葉とたち居振る舞いの両方から勉強させていただいたことが実に多かったです。いつ頃のことかはつきり覚えていませんが、ある日、先生と雑談していた時に、人間関係のあり方に関して、「日本人が一番大事にしているものは何でしょうか」という質問を致しました。その時、先生は「和」という抽象的な返答をされた後、「日本人はなぜ和を重視するのか」に関連して、分かりやすく「和」について説明するために具体的に日本の建築や庭園などの例を挙げて、日本人は人間と人間との調和、人間と自然との調和も重視しているという話をされたことは、今でも鮮明に覚えています。

言葉にとどまらず、私の観点からすれば、先生は普段の日常会話においても、センター会議や教授会などの正式な場面においても、ご自分の意思や意見を直接相手に強くぶつけて自己主張なされることは控えられ、無用の摩擦を避けようとする、古来からの日本の伝統的な文化に基づいた行動をなさっておられるように思います。私が考えるに、先生の姿は和の心を持った典型的な日本人の国民性の特徴の一側面を反映しているのではないかと思います。

以上、先生のご退職に際して、今までの11年間のお付き合いの中で特に個人的に印象的だったことや先生との数々の思い出について述べさせていただきました。また、この機会をお借りして、長年大いにお世話になりました先生への感謝の気持ちを込めて、先生が今後も更にお幸せな生活を送られることを心から祈っております。